

文書館の逸品展

古文書の補修

— 方法と成果 —



《展示期間》平成24年4月24日（火）～8月5日（日）
 《ところ》徳島県立文書館 2階 展示室
 《休館日》毎週月曜日・第3木曜日（祝祭日と重なった場合は翌日）
 《開館時間》午前9時30分～午後5時 **入場無料**

【展示関連行事】 ☆ワークショップ☆

見てみよう♪ やってみよう！ 古文書補修
 平成24年6月3日（日）午後1時30分から

「あいさつ」

徳島県立文書館で所蔵している古文書の中には長期間のうちに様々な理由で傷みが生じ、そのままでは利用しにくくなっているものがあります。当館では、そのような補修を必要とする古文書が1万点を超えています。

ところで当館では、平成6年度より文書資料保存講座、平成20年度から、古文書補修ボランティア養成講座を開催し、古文書資料の補修技術の普及と資料保存の必要性を働きかける取り組みを行っています。

現在12名のボランティアの皆さんが毎月2回、根拠と技術が必要な補修作業に取り組んでいます。あるボランティアの方が「貴重な資料を後世に残すということ、自分たちが補修した古文書が数百年後にも残るといいうことが大きなやりがいを感じる。」という話をきいてくれたことがあります。古文書補修に取り組むことが皆さん自身のやりがい、充実感につながっていることは、我々にとっても大きな喜びであり、業務への励みとなっています。

古文書の補修は、地域の歴史を解明し、自分たちの未来を展望していくための大切な基礎となる作業、技術といえます。しかし、現在、少子高齢化、過疎化の進行など社会の変化に伴い、救済、消滅の危機にさらされている古文書などの歴史資料は少なくありません。現在だけでなく、将来の世代が歴史から学ぶことができないように資料保存に取り組まなければならない状況にあります。

今回の展示について、学び考える機会になることを願っています。

なお、今回の逸品展の開催にあたり、「古文書の町匠者」とも呼ばれる元宮内庁書陵部補修部長の横山隆次氏、古文書補修ボランティアの皆さんに特別のご理解、ご協力をいただきました。末足ながら厚くお礼を申し上げます。

平成24年4月24日

徳島県立文書館長 靖城 幸典

古文書保存講座と古文書補修ボランティア

「古文書の補修を恐れることはない。再度補修可能な材料と方法で行えば、誰でも安心して古文書補修を行うことができる。傷がって補修を行わず、資料として公開されずに朽ちてしまう方が大きな損失だ。」徳島県立文書館において平成5（1993）年に始めた文書資料保存講座（現在の古文書保存講座）に最初から講師としてお招きした、元宮内庁書陵部修繕師長横山謙次氏が講座の中で毎回のように語られる一節である。

紙と言えば破れやすいもの、墨と言えば滲んだり流れてしまうものという印象があるが、本来の和紙や墨は強くとも安定した素材だ。和紙は紙は元々水を使って漉いた物であるし、墨は一度完全に乾いてしまえばほとんど滲んだりすることはない。少々水に浸しても乾かせば元通りにもどる。その昔「火事時には大事な帳簿は井戸に投げ込め」という話があった。帳簿は燃えてしまえば灰になるだけだが、水に濡れても和紙で作られた帳簿は元に戻るといえることを前提にした話である（実際にはカビの問題がありその後の早いケアが必要ではあるが）。少々虫に食われたものであっても和紙に墨で書かれた古文書は、きちんと水に溶ける糊を使い、元の紙に近い和紙で補修してやることができれば、補修は可能である。

横山氏は、地元である千葉県白井市や鎌ヶ谷市、埼玉県などでもボランティアの人達とともに古文書の補修を行っている。地元では直接ボランティアの方々への指導をされていると聞いていたが、徳島では直接のご指導が舞いなかで、ボランティア組織を立ち上げることは難しいと考えていた。しかし横山氏から「これまでの経験から、道具や工程を工夫して一般の方でも十分対応できる方法がある。」という話を聞き、保存講座の参加者から「ボランティアでもいっから、こういうじっくりした仕事をしてみたい。」という声もあり、平成20年（2008）から古文書補修ボランティア講座を立ち上げた。保存講座の翌日を補修ボランティア講座の日と定めて1日、実践的な古文書補修の工程や道具の使い方を学ぶ機会とした。その後1年間は月に2回づつ活動日を定めて練習を続けることにした。また、補修の様子を撮影した映像（DVD）を残していただき、さらにわからないことができたときにはEメールで質問をさせていただきながら活動を続けた。

1年後、横山氏に練習の成果を確認していただきボランティアとして実践に入っていた。補修を行う場所が文書館の調理室に限られる事情もあり、現在では12名で活動を続けていただいている。

現在の活動では、毎回書から使われている正粘糊を煮て、古紙もしくは徳島県吉野川市山川で作られた生産者の和紙を利用し、記録（写真とメモ）をとり、ポリエステル紙・レーヨン紙など化学繊維の紙をきちんと当て紙に使い、間違いの少ない方法を確認している。あまりにも難しい状態の文書はプロの方にお任せするためそのまま置いておき、「できるものから」を念頭に置いて作業を進めている。

結果として、文書館が所蔵している古文書の中で、近衛家、藤倉家、美馬家の内由喰い（うぢく）の古文書を中心に約200点の補修が終わり、これまで未公開史料の公開が可能になったものもある。さらに、展示する大型絵図の補修、襖の下張りや剥くなどの作業もさせていただいている。貴重な古文書の保存と活用を両立させることが最大の成果と考える。

古文書補修の工程

徳島県立文書館、古文書補修ボランティアにおける古文書補修工程の概要です。

【】内はその工程で使用する道具です。

①準備

①前日煮た糊を煮して水で薄めて使用できる状態にする。【糊（正熱糊）・水・鍋・しゃもじ・蓋し器・バット・糊刷毛】

②その日に使うレーヨン紙・ポリエステル紙などを使いやすい大きさに切る。【ポリエステル紙・レーヨン紙・カッター・アクリル定規】

②事前記録

③補修する古文書の状態をカードへ記録する。【記録カード・鉛筆・へら・ピンセット・千枚通し】

④補修する古文書の状態を写真に撮る。【デジタルカメラ・接写台】

③しわ伸ばし・水洗い

⑤古文書の継ぎ目の糊を水で溶かし、古文書をバラして1紙ずつにする。ピンセットなどで出っけなどを成形する。【洗紙・ポリエステル紙・水・へら・ピンセット・水刷毛】

⑥ポリエステル紙（紙れにくい、張り付きにくい紙）と刷毛を使用して古文書本紙を伸ばし、レーヨン紙（柔らかい破れやすい紙）を利用して古文書のゴミや汚れを取り除く。（水に濡らすだけでもゴミや汚れは浮いてきれいになるがレーヨン紙に移してやることによってさらにきれいになる。）【洗紙・ポリエステル紙・レーヨン紙・水・水刷毛】

④乾燥1

⑦ポリエステル紙で挟んだ古文書をボール紙で挟んで、乾燥させる。【ポリエステル紙・ボール紙・綿紐・重石】

⑤虫穴縫い

⑧虫穴を繕う。裏打ちをする。【洗紙台（下敷き）・セルロイド板（糸）・糊・親用バット・筆・糊刷毛小刀・ピンセット・洗紙】

⑥乾燥2

⑨再びポリエステル紙・ボール紙で挟んで乾燥させる。【ポリエステル紙・ボール紙・綿紐】

⑦成形・記録

⑩不必要な紙を切り落とす。（本紙を切り落として成形はしない。）継ぎ目を貼り、古文書の成形を完成させる。【カッター・カッターマット・糊・筆】

⑪事後記録をとり、事後撮影をする【記録カード・鉛筆・デジタルカメラ】

展示資料一覧

No.	表 題	年 代	備 考
古文書補修に使う道具			
1	糊（正粘糊・粉）		
2	刷毛（水ばけ）		
3	刷毛（糊ばけ）		
4	刷毛（糨でばけ）		
5	ポリエステル紙		
6	レーヨン紙		
7	和紙(ロール)		
8	和紙(古紙)		
9	洗紙(和紙に柿渋を塗った物)		
10	ボール紙		
11	重石		
12	セルロイド板		
13	記録カード		
14	ピンセット		
15	千枚通し		
16	清紙		
鎌倉家文書			
17	仕上書物之事(鰯魚五分一連上御請証文)	天明8年(1788)	フ700313
18	福り手形之事(手形紛失につき福り手形発行の件)	天保14年(1843)	フ700319
19	松野郡栗田村大坂廻船増船御案内指出権(本控)	文化10年(1813)	フ700338
20	帳産申渡続然者其村(御用松茸の生え数申し出の件)	(文化7年(1810))	フ700347
21	徳々申渡続然ハ其村(御用松茸上納の件)	(文化7年(1810))	フ700353
近世家文書			
22	申上ル覚(江戸人足伝五郎の件)	(近世後期)	コ200947
23	覚(勧興普請所日輪見御用扶持方の件)	(宝暦4年(1754))	コ201259
24	覚(火の用心御千当新役人の件)	(近世後期)	コ201385
美馬家文書			
25	仕上御請書之覚(銀下株年限等請書)	慶応2年(1866)	ミマ00864
26	仕上ル書付之覚(瀬瀨村原原村覚立の件)	文化10年(1813)	ミマ01500
27	組中博交請事覚書之覚	安政6年(1859)	ミマ01584
28	恭恐奉願上覚(御停止の石灰焼出し輸入の件)下	(近世)	ミマ01753
絵図			
29	万国航海図	文久2年(1862)	西野多田家文書
30	地球万国方図	嘉永6年(1853)	西野多田家文書
視の下張り			
31	古文書の下張りがあまる様		山西家文書

*資料保存のため、期間中展示品が替わることがあります。



大型絵図の補修をするボランティアの方々

文書館の逸品展「古文書の補修—方法と成果—」

平成24年4月24日発行

編集・発行 徳島県立文書館